

---

# ハートの冒険

G U T S 隊員

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハートの冒険

### 【Nコード】

N0711I

### 【作者名】

GUTS隊員

### 【あらすじ】

この物語は、完全に主人公目線で描くポケットモンスター：ハートゴールドの物語。これを読んで、ハートゴールドを攻略しちゃいましょー！ちなみに作者は13時間でワタル倒しました。

## プロローグ

この物語は・・・

ウルトラマン厨の作者が現在プレイしているポケットモンスター：ハートゴールドの世界感を、主人公もとい作者が操っている可愛そうな人の目線で描いたモノです。この作品を書く決心をしたのは、最近のポケモンアニメは、ありもしない街に寄りヒカリが

「コンテストコンテストコンテスト」というありきたりな展開に嫌気が指したからです。なのでこの小説は、先程述べた様に

「ゲームの主人公目線」つまり、

この小説を読む＝ポケモン金銀の攻略になる

という、ポケサンカンパニー的な展開を実施・・・オリジナルな展開はほぼ無く、まさに主人公&プレイヤー目線で描いたこの小説。次回から始まっちゃいます。

尚・・・

ウルトラマン厨な作者のため、ウルトラマンの執筆でアレでアレな  
感じになり、執筆が遅れても見放さないで下さい・・・

## 第一話：果たしてサ シはチート野郎！？

俺の名はハート。

今、俺たちはキキョウシティに向かうべく31番道路をほっつき歩いています。

・・・俺たち？何か変ですか？ハートゴールドはポケモン連れて行くから必然的に『俺たち』になるんですよ。

ちなみにウツギ博士から貰ったポケモンはチコリータ。

え？弱い？弱点多い？雑魚？焼け死ね？あああ言えば良いじゃない。

俺草好きだから。

ちなみにさつきボングリ取りました・・・てか、なにに使うのコレ。食えねえじゃん。堅いし。まあいい。辺りはすっかり夜で草むら歩く度にホーホーが、マジウザイ。ロバトの秋山はホーホーの何処がいいんだか・・・ちなみに、夜になった原因は『くらやみのほらあな』をずっとフラッシュ無しで探索してたから。何故か？そう・・・旅のお供はポケモンだけでは無いのです。

「だからレジガスは封印され・・・であり点字は未来に託す・・・そしてアルセウスの神話は・・・ねえ、聞いてます！？ハート！」

「ああ聞いてますよ、遺跡厨。」

「遺跡厨言わないで下さい！」

ワカバタウンから着いてきた旅のお供、ティアナ。

あれ？何処かで聞いた名前？言っちゃいけないよそれ。

確かに初めてあった時、は？なにこいつ？頭少し冷やそうか？的なヤツだったケドさ・・・いやそんなヤツなんだケドさ・・・。やたら

こいつ遺跡が好きで、洞窟がある度に『調査だーッ』て叫びながら突入するんだよ・・・所持ポケモンはレベル7のサンドだけなのにこいつのせいで何体のズバットやイシツブテを葬った事か・・・。

「んで、ね？ミカルゲ誕生の裏には数多くの神話や・・・。」

「・・・少し頭冷やそうか？」

「そんな寂しい事言わないでよー！」

「・・・ティ ナ・ラン ターからツンを抜いたらこうなるのか・・・。」

「ねえ、人の話聞いている？」

「ああああ！お前の遺跡談義に付き合いきれるか！！『パンツめくれ』って連呼してる！」

「何よそれ！アンタだってちつとも人の話聞かない癖に！私が注意しなけりゃボングリ袋取り忘れてたわよ！」

「うるせえボングリ何に使うかわかんねーんだよ！！！」

「ファ 通見なさい！ボール作ってくれる人居たわよ！」

「これでボール作れるかアホ！」

「作れるのよ！ついでにジュースも！！！」

「ジュース！？こんな堅い木の実でジュース！？笑わせんなや！」

「フア 通見なさい！ポケスロンの前に飲ませるのよ！」

「知るか！！俺は強いポケモンさえいりゃ良いんだよ！」

「それライバルと同じじゃない！！」

「良いよ同じで！マジで！ポケモンは友達とか言ってるピカチュウ厨くたばれ！」

「言つて良いこと悪い事あるでしょ！失礼よ！映画だつてあるのよ！！！」

「映画なんて、誰出たつて誰が主人公だつて言うことみんな綺麗事だろが！てかピカチュウ厨の持つてるポケモン全員チートポケモンだろ！！！」

「根拠は？根拠はあんの！！？」

「普通クロググのドサイドン相手にハヤシガメで互角に渡り合えるか！？？」

「ハヤシガメはきつとレベル90位なのよ！！」

「進化させるだろ普通！！！」

「バトルフロンティアに出てきたトレーナーの中にはヤドンとかウツドン出すヤツがいるってパパが言つてたわ！！！」

「バトルフロンティアの序盤の連中は頭がイカレテンダヨ！！てか

話反らすな！！答えろよ！！サ シのポケモンがチートポケモンじゃ無かつたら何なんだ！？」

「努力値よ！！！」

「劇中でそんな努力してないだろ！！！」

「良く見てみなさい！自分のポケモン二体だして特訓してたわ！ドーンファンにピカチュウがボルテッカーして、ボルテッカーの特訓してたわ！！！」

「そんなに努力値たまるか！？」

「たまるのよ！！！」

「……」

「……」

「……」

「……」

「……キキヨウシティ、行くか。」

「フラッシュ取らないとね……」

二人の旅はまだ始まったばかり！！



## 第二話：マダツボミの塔？燃えましたよ。

マダツボミの塔が燃えました。はい。え？意味がわからない？そのまんまです。火事です。火事です。火事です。攻略小説じゃない？良いじゃないですか。作者の遊び心です。ちなみに何故こうなってしまったか。ハイパークロックアップして時間を戻しましょう。

「ハヤトとか雑魚だわ・・・」

「『どろかけ』『じゃなく』『はねやすめ』『ばっかりしてましたからね・・・』」

「ああああ、退屈・・・。」

「まだ序盤ですよ？てか、マダツボミの塔すっぱかしてます！..!」

「あ、忘れてた。」

「てかマダツボミの塔すっぱかしてジム戦とか、順番おかしいです！..!」

「……だるいからお前が行けよ。」

「わ、わたし!?!」

「読者は女性キャラの活躍がみたいんだよ。」

「てかわたしサンドしかないし、相性的に……てか、キキヨウジム戦のバトルシーン省かれています!!」

「なぬ!?!己作者……!ならばマダツボミの塔をモヤシ樽!!」

「モヤシ樽?……燃やしたる!?!あ、ハート!何処行くんですか!?!ハート!!」

「マダツボミとイワーク交換し」

「ほらマダツボミ。」

少年の前に、ハートはナゾノクサを差し出す。

「……え?いやこれは……ナゾノ……」



燃えろよ燃えろよ

塔よ燃えろよ

・・・中から重軽傷者のお坊さんが多数。中にはライバルもいた。そしてお坊さんの中からボス的な人を見付け、フラッシュを拝借。二人は先へと向かった・・・

「って、おかしいでしょ!!」

「なにが？」

「マダツボミの塔!!燃えましたよ!!」

「一階だけな。」

「一階だけで何故最上階のお坊さんまで火傷したんですか!!」

「・・・キキヨウシティでは、マダツボミとイワークを交換してくれる輩がいるよ!覚えておこう!!」

「なにをかぎってんですか！自主しましょー！自主して．．．」

「次はアルフの遺跡か．．．。」

「．．．行きたいです．．．。」

「．．．行くか。」

「はい．．．。」

パパ、わたしが駄目になっていきます．．．

二人の旅は、まだ始まったばかり！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0711i/>

---

ハートの冒険

2010年10月9日04時52分発行